

三加和  
中学校  
学校たより

# 磨き合う



15限目

10月28日(金)

『いじめがなくなるには  
どうしたらよいか?』

文化発表会での小山大介君  
(3年)の発表をうけて...

(本人の作文です)

僕は、人前で話したりするのが、とても苦手です。仲のいい友だちと話すときは、しっかりしゃべれるのに、たくさんの人や大人の人などと話すと、声が小さくなって、もごもごとしてしまいます。話すときに、相手は自分の事をどう思っているのか、とか、これを言ったら相手が嫌な気持ちになるんじゃないか、とか思ってしまう、次第に自信がなくなっていき、声も小さくなってしまいます。

小学生の時、自分はそのつもりはなかったのに、言葉が足りなくて、相手を傷つけてしまったことがあります。そのせいで、ケンカになったりして、とてもつらい思いをした事があります。他にも、人前で発表したときに、声が小さくなってしまって、発表が終わった後に「もっと大きな声でしゃべれよ!」と、友だちに言われて、悲しくなったこともあります。だから、僕は、話すことが苦手だと思込んでいるところがあります。

けれど考えてみたら、僕が人前で話すのが苦手なのと同じで、周りの人たちにも、苦手なことがあると思います。みんなそれぞれ、違うところがあり、得意なことも苦手なこともさまざまです。だから、それをみんなが分かって、互いにおぎないあつていけたらいいと思います。誰にでも苦手はあるので、そんな当たり前のことで、人を馬鹿にしたりしてしまうのはいけないことだと思います。

僕は自分の苦手な、人から指摘されたことはありますが、馬鹿にされたことはありません。でも、自分は馬鹿にされたらイヤな思いをすると分かっているのに、人の苦手なところや気にしているところを笑ってしまい、イヤな思いをさせたことがあります。そのせいでケンカになったこともあります。皆さんにも、自分では悪いと思っていなくても、言ってしまった言葉が相手を傷つけてしまったことがたぶんあると思います。無意識のうちに相手を傷つけてしまった場合は、相手に心から謝って許してもらえれば解決するかもしれませんが、悪意を持って相手を馬鹿にしたり、けなしたり、落とし入れたりし続けてしまったら、それがいじめなどにつながってしまうのです。

では、なぜ、悪意を持って人に当たったりするのでしょうか。そういう人は、たぶん心にストレスがありそれを発散できなかつたり、誰かに自分の事を認めてもらいたかつたりして、ついつい手を出してしまうのではないのでしょうか。周りの環境で、いじめをする人の心が揺さぶられて悪い方向に行ってしまうと思うのです。僕も、心にストレスがたまっているとき、親や友だちに強く当たってしまったことがあります。いろんな事があつてイライラしていたときに、友だちのちょっとした事に対して暴言を吐いてしまったこともあります。その後は反省して、すぐに仲直りはできましたが、自分ももしかしたら、いじめる立場になっていたかと思うと、とても後悔しています。

また、いじめは、本人はしていないと思っけていても、ちょっとした「いじり」とかが続いていくと、どんどんエスカレートしていつ、周りの人を巻き込みながら、最終的にはいじめにつながっていくこともあります。いじめを受けている側の人不登校になったり、自殺をしたりと、大きな問題になってからでは遅いのに、いじめる側の人はそのままで追い込むつもりは無かつたと思っけているかもしれませんが、ちょっとした誰かの行動の積み重ねで、人が亡くなってしまうのは許せません。テレビのニュースなどで、学校がいじめなどが原因で自殺をしたりしているのを見ると、とても心が痛くなります。もしかしたら自分が、その加害者になっていたかもしれないし、被害者になっていたかもしれないと思うからです。

このように、振り返ってみると、この社会からいじめを無くすためには、まず、人と人同士が苦手なところを馬鹿にしたり、けなしたりするのではなくて、得意なところは褒めあい、苦手なところは助け合つていけばいいと思います。また、自分の感情やイライラ等を人に当たるのではなく、上手に解消する事も大事だと思います。

僕は最初に、人前でしゃべるのが苦手と言いましたが、この苦手を克服するために、小学校の時にはほとんどスポーツをしていませんでしたが、中学生になってからバスケット部に入り、最初はとてもきつくてやめようとも思っけていましたが、それを乗り越えてバスケットを続け、今も続いています。上手ではないけどキャプテンになって、みんなを引っ張つていく立場になりました。チームをまとめるのはすごく難しいけど、やっているうちに少しずつ自分に自信がついてきて、しゃべることもだんだんできるようになってきています。

皆さんも、苦手なところを助けてもらうだけじゃなくて、その苦手なところを克服するための努力をして、みんなが自分を好きになれば、心にも余裕が出てきて、みんなでいじめのない社会が作れるような気がします。すぐに実現することは難しいかもしれませんが、まずは三加和中学校がみんなの前向きな気持ちに溢れた、いじめのない素敵な学校になって欲しいと思います。

本番では、何人かが小山君に返しの言葉を言ってくれたので、私はこの紙面で返しをしようと思います。以前、人権集会で私がいじめられて命を落とすとしたことがあつた話をしたと思います。その経験から言うと、小山君が言っているように初めから『いじめ』をしようと思つてもいじめる人は少ない人です。恐ろしいのは『いじり』という冷やか事です。反論できる人はこの段階で返すので、その後いじめに発展することはないのですが、反論できない人は、笑つてごまかすので、いじりもいじりた。という雰囲気になり、それが当たり前になってきます。そうして特定の弱い人に攻撃の矛先が向きます。その後はみなさんもわかるとおりです。だから、小山君が言っているように、苦手なところをバカにしたり、けなしたりするのはなく、助け合う間柄になつてほしいと思います。素晴らしい発表をありがとう!!



( )年( )月